

知って得する！ 受験英語 必勝法

受験英語の基本的な勉強方法

英語ができないまま大学受験に挑むのは、無謀と言ってよいでしょう。

成績が上がってくるまでの時間には個人差があるとはいえ、努力の方法を間違えると、微々たる効果しか得られず、徐々にやる気を失うことになります。受験英語（スピーキングは除いて）に取り組むに当たって、多くの人が、3段階〔①単語をマスターしてから文法へ、②文法を理解してから、③読解力を鍛える〕で力を付けていこうとします。しかし、本来は、この3段階を同時進行で行い、可能な限り最短距離で学習する必要があるのです。

では、受験英語の必勝法について話しましょう。

まず、中学校レベルの単語(600語)もおぼつかないという人は、できるだけ早い段階で完成させましょう。これは、例外的に他の勉強を差し置いてでも、短期集中で仕上げなければなりません。

大切なことは、長文読解の問題を解きながら単語を覚えることです。これによって、一面的な単語の意味にとどまらず、受験英語で最も必要とされる「文脈に即した単語の意味」を覚えることができます。ただし、文章問題だけで、必要な単語の全てを網羅できるとは限りません。不十分なところは、単語本でカバーしていきましょう。

文法についても、単語と同様のことが言えます。必要なのは、文章を読むための文法なのです。長文読解の問題を解きながら、文章を読むために必要な文法を繰り返し学習していきましょう。

最後に一言。毎日学習を継続すること。週一回、5時間の勉強より、毎日30分ずつ勉強する方がよほど効果的だということです。

1 単語

まずは覚えたい単語の、文章の中で用いる意味を、意識の中で3回イメージを繰り返します、これは無意識に送り込んでいるのです。これが一番よいのですが、

一度に大量の単語を暗記する場合に大切なことは、忘れるか忘れないかのタイミングで（個人差はありますが最初に記憶してから数日後）、もう一度、暗記するのです。

なお、単語本は読むだけで構いません。なぜなら、英文の読解や英作文などを通して、必要な単語は自然と覚え書けるようになるからです。

2 文法

文章の内容を理解する上で、文構造を把握することは必要であり、文法はその際の土台となるものです。以前、文法に関する勉強を軽視する風潮がはびこった時期もありましたが、文法に関する勉強を軽視してよいはずがありません。

文法の中で鍵となるのが、修飾関係の正確な把握です。しかし、このことに難しさを感じるという声を多く聞きます。そういった人は、一文を意味内容で区切る（述部の前後で区切る）ことができるようになればよいのです。これによって、文法が正しく理解できるようになり、イディオム表現や暗記構文の多くを丸暗記ではなく、理屈をもって確実に頭に入れることができるようになります。

特に、慣用的な独立分詞構文などの暗記事項は、「大体、覚えた！」ではダメなのです。読解の際、全く役に立ちません。例えば、文法専用のノートを作り、覚えておきたい事項、間違えた問題だけをピックアップして書き留めていくのもよい方法です。